令和７年度喜入ブロック小・中連携研修会報告

令和７年度は、喜入中学校において小・中連携研修会を行いました。喜入ブロック内小中学校教職員が参加し、中学校の授業を参観したほか、「９年間を見通した確かな学力の育成や生徒指導の充実を図る小・中連携」をテーマに分科会に分かれて意見を交わしました。

１　日　時　　令和７年６月２３日（月）　１４：３０～１６：３０

２　参加者　　教職員６３人（瀬々串小・中名小・喜入小・一倉小・前之浜小・生見小・喜入中）

３　内　容

（１）分科会

学習指導部会、生徒指導部会、特別支援教育部会、養護教諭部会に分かれて実施しました。各部会では、各校の現状や課題をもとに、「小と中が連携することで、子どもたちがもっと良くなりそうなことはどんなこと？」の視点で意見交換を行いました。

ア　学習指導部会

家庭学習、基礎学力の定着、ICT 機器の活用、聞く力・話す力などについて、各学校の実態や指導における課題を出し合い、グループで実践例や指導法について話し合いました。また、中学進学時に子どもをつまずかせないために学校はどうすればいいかについても協議しました。

【協議内容】

■　話す力・聞く力をどうとらえるか。発達段階を考慮しつつ、学年ごとの指標を設けることはできないか。また、児童生徒の実態や指導法、中学進学後の姿はどうか。

■　ICT 機器の活用はどの程度進んでいるか。小学校では活用する頻度は高いが、中学校では低い。ICT 活用が効果的なもの、そうでないものを、義務教育９年間を通して見極めたい。

■　基礎学力の定着に苦慮している。家庭学習の充実も鍵だと思う。粘り強さや集中の度合いなど、非認知能力の部分も鍛えたい。

【今後の取組等】

■　小中それぞれの良さを取り入れつつ、義務教育９年間の視点でより良い学習方法は何か見極める。

■　ティーチャーが、コーチやファシリテーターとしての要素が強くなってきている。教師の指導観を、小中共にアップデートしていく。

イ　生徒指導部会

生活のきまり、安全指導、不登校、保護者対応などについて、各学校の実態や指導における課題を出し合い、グループで話し合いました。話し合いの中では「自己肯定感」という言葉が多く出され、課題意識の高まりを感じさせられました。

【協議内容】

■　生活のきまりについては、発達段階を考慮しつつ、小中で細かく連携したい。また、スマートフォンの所有・利用や、SNS との適切な関りについても、低学年時から指導を行うことが必要である。

■　安全指導を充実させたい。安全マップを作成し校内で指導を行っているが、保護者との情報共有と連携が不足している。

■　不登校の児童生徒およびその家庭への適切な指導・支援について模索が続いている。成功体験を増やすなどして「自己肯定感」の向上も図りたい。

■　困りを訴える保護者への対応件数が増えた。スクールカウンセラーや児童生徒支援課、警察とも連携している。社会の傾向として、大人の自己肯定感も下がっているのだろうか。

【今後の取組等】

■　不登校児童生徒およびそのきょうだい・家族への支援、生活のきまり、安全指導については、小中で細かく連携する。

■　自己肯定感を高めるための取組を、小中それぞれで進める。

ウ　特別支援教育部会

異学年で学ぶ際の授業の工夫や学力差に対応した授業の工夫、中学校へ進学するまでに育てたい力などについて、情緒学級と知的学級に分かれて話し合いを行いました。

【協議内容】

■　児童生徒がもつ特性に対し、学校はどのように付き合い、どう教育活動に組み込んでいくか取組が続いている。交流担任との連携や時間割の調整など、物理的な面での支援も必要である。（情緒学級）

■　通常学級での支援に十分手が回らない。交流学級の担任と支援学級の担任の思いを共有させておきたい。（知的学級）

■　保護者との連携がとても大切である。

【今後の取組等】

■　保護者との連携を大切にしたい。中学校入学前の個別の相談会を積極的に活用する。また、その周知を行う。

エ　養護教諭部会

歯科保健・メディア機器との関わり・子ども同士の人間関係・学習時や給食時の姿勢・学校保健委員会の効果的な運営や内容について課題を共有しました。

【協議内容】

■　う歯の治療率は多少向上したが依然低いままである。歯みがきについては、家庭への支援が必要だと考えらえる場合もある。
■　メディア機器の使用について、生活リズムの乱れのほか、体幹の弱さ、人間関係の希薄化につながっていると見られる。メディア機器との関わりを否定はしないが、適切な利用となるような仕掛けを学校から発信できないか。
■　心の健康について、保健室登校や不登校、遅刻欠席についての情報共有。
■　学校保健委員会の運用についての情報共有。

【今後の取組・共通実践事項】

■　メディア機器との適切な関りとなるような仕掛けを行う。
（例：うちどくの日、ほめ日記、メディア機器使用の振り返りシート、保護者への啓発活動、親子で健康について学ぶ機会）

（２）全体会

校内の各分科会場を Teams で結び、オンラインで実施しました。

各部会で協議された内容についての報告と、各校で取組可能と思われるものについての取組例の紹介が行われました。

最後に小中連携研修会が、喜入地域の小中学校の職員が集まり、顔見知りとなる場となれたこと、さらに、今後も喜入地域の教育について同じ目線で取り組もうとする機運を高められたことについてねぎらいの言葉が出されました。